

2015年5月19日

報道関係各位

山陽電気鉄道株式会社



# 新型車両「6000系」を導入します

～環境にやさしく、安全・快適でフレキシブルな運用に対応～

山陽電気鉄道株式会社（本社：神戸市長田区、社長：上門一裕）は、既存車両「3000系」の代替として、新型車両「6000系」を導入します。2015年度には、3両2編成を新造します。

当該車両は「5030系」車両以来19年ぶりの新型車両となります。

「6000系」車両は『環境にやさしく、安全・快適な車内空間の提供』をコンセプトとし、普通車運用から2編成を連結した直通特急運用まで、幅広く対応します。

今までの山陽電車のイメージを踏襲しつつも、随所に刷新した省エネ機器およびお客さまへのサービス設備を採用することにより、お客さまとともに新たな歴史を刻みます。

概要は以下のとおりです。



「6000系」外観イメージ

## 【6000系の概要】

《1》 構 成 3両編成 (Mc-T-Mc)  
※6両連結時 (Mc-T-Mc + Mc-T-Mc)

《2》 定 員 先頭車： 122名 (うち座席 41名)  
中間車： 135名 (うち座席 49名)

### 《3》 環境への配慮

◇省エネ化で既存車両3000系に比べ、電力量を約40%削減

- ・電力回生ブレーキの使用範囲を拡大したVVVFインバータ制御装置を採用したほか、前照灯や室内灯を含むすべての照明装置をLED化して消費電力を削減します。
- ・アルミニウム合金車体で、外板無塗装により環境負荷を低減します。

◇車内外の騒音レベルの低減

- ・全閉外扇型誘導電動機の採用により、モータ駆動音を低減します。
- ・フラット防止機能付きブレーキシステムにより、ブレーキ時の車輪へのダメージを抑制し、走行中の騒音を低減するだけでなく、乗り心地の向上も図ります。

### 《4》 安全性の充実

◇きめ細やかなブレーキ制御

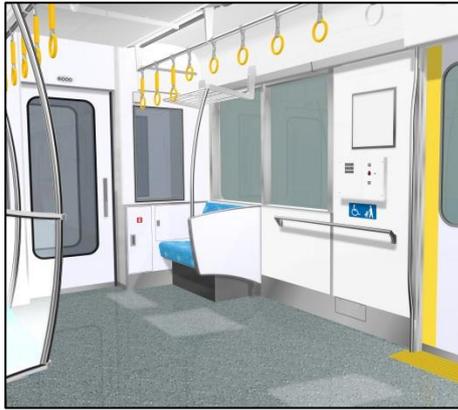
- ・台車単位のブレーキ制御によって、きめ細やかなブレーキを実現するとともに、故障時のバックアップ機能も強化しています。

◇安全対策を考慮した設計

- ・万一の事故や急ブレーキ時に、お客さまと車内設備またはお客さま同士の衝突を防止するため、座席端部の仕切板を大型化し、握り棒を増設します。
- ・ドア閉時の挟み込み対策として、ドア閉後に一定時間戸閉力を弱め、引き抜きやすくする戸挟制御機能を設けます。
- ・ホームからの転落防止対策として、6両連結時は先頭車間にも転落防止ホロを取付けます。

### 《5》 快適な車内空間の提供

- ・車いす・ベビーカースペースを全車両に設け、優先座席の明確化のため、シートを青色、吊輪をオレンジ色にします。
- ・出入口をわかりやすくするため、誘導鈴とドア開閉予告灯を全ての出入口に設けるほか、車内側ドア両端部と足元マットに黄色を配し、車外側はドア全体を赤色にしています。
- ・LCD車内案内表示器を1両に3か所設け、行先・駅名マップ・乗換案内・ドア開方向等、様々な情報をわかりやすくお知らせします。また、外国のお客さまへの対応として、4か国5言語(日・英・中(繁体・簡体)・韓)を表示します。
- ・自動制御の空調装置に加え、きめ細やかな制御により快適な車内環境を提供します。また、当社では初となるラインフローファンを全車両に設けます。
- ・バケットシートを採用し、お客さま1人あたりのシートピッチを広げるとともに、シートの背もたれ高さを長くして、座り心地に配慮しています。



車いす・ベビーカースペース イメージ



車内案内表示器 画面イメージ

## 《6》 デザインコンセプト『継承と挑戦』

### ◇エクステリアデザイン

- ・コーポレートカラーの「赤」を継承し、より深みある「イノセントレッド」を採用することで、既存車両との調和を図るとともに、更なる躍進をアピールします。
- ・側面のドア横には、朝日をイメージしたオレンジのグラデーションをデザインし、挑戦し続ける姿勢を表現しています。

### ◇インテリアデザイン

- ・ガラス仕切板等を採用し、開放感のあるクリアでスマートな印象としました。
- ・座席シートは、外観と調和させた「赤」を用い、柄模様には沿線に可憐に咲く兵庫県花である「のじぎく」を採用しました。華やかでありながら落ち着いた車内空間を演出します。



「6000系」車内イメージ

### 〈資料提供先〉

青灯クラブ、近畿電鉄記者クラブ、兵庫県政記者クラブ、神戸市政記者クラブ  
神戸民放記者クラブ、神戸経済記者クラブ、明石市政記者クラブ、姫路市政記者クラブ

本件に関するお問い合わせは

山陽電気鉄道株式会社 技術部 TEL 078-940-5241